

## 徳永製菓の新作豆

# 10月は「ちーかるなつつ」

豆菓子製造・販売の徳永製菓(株)(福山市胡町四―二一、上迫豊社長)は、10月の新作豆菓子「ちーかるなつつ」Ⅱ写真Ⅱの販売を同社直営の販売店「豆徳本店」などで始め

た。既存商品の「いわし豆」に、小魚・焼きチーズ・縦切りのアーモンドをミックスした。一袋で成人女性に必要なカルシウムの半日分が摂取できる



という。「いろいろな味わいと食感を一度に楽しめるミックス豆。健康を意識した自信作です」。六〇㊦入りで四三二円。

同社は1869年創業で、伝統的な豆菓子から、フルーツ味のカラフルな豆やナッツ菓子などを製造する。長年培ってきた素材をコーティング

の技術を活用し、従来にない品を開発している。

豆徳本店が一七周年を迎えたのを記念し、10月末まで「感謝祭」を実施中。商品を少し増量したり、期間限定のオスマ商品を取りそろえて提供する。

問 豆徳本店 ☎084・922・2710

## 夕暮れの灯り

[149]



### カラオケと酒は百薬の長

今田 昭和(いまだあきかず)

この物語は日記や記憶をもとに創作し、「コミカルタッチで、つづったものである。話は時として飛んだり、ひっくり返るが、ご容赦願いたい。

1975年に純喫茶を開店させた。業態の変更は「その頃のトレンドを追った」。読みは当たったが、やがて同業者が増えて競争が激化、売上は下降線をたどる。

### 「曲紹介の声が響く」

カラオケ喫茶「ユタカ」(福山市瀬戸町)は、食堂からスタートした。「古野上町で営んでいたが手狭になり、土地を確保していた現在地に移転した」とマスターの藤井豊さんで、店舗兼住居を建設。

そんな折、一緒に歌を習っていた人の助言で、カラオケ

喫茶の経営に乗り出すが、「果たしてコーヒーを飲んで歌ってくれるだろうか」。豊さんは一抹の不安を抱えていた。歌は酒を飲んだ後に出るもの、と置いていたからだ。

店内を改装してカラオケ喫茶に切り替えたのは、85年。当時、福山には港町に一軒(現在は閉店)があっただけ。市内はおろか、笠岡や井原からも客が押し掛け、不安は杞憂に終わる。

息子の康雄さんが阪急に入団(86年)すると、本塁打を打った翌日はコーヒーを半額にするサービスを始めた。康雄さんは90年に三七本を放ち、四二本でホームラン王になった西武のデストラーデに次いで二位の成績を収める。「その年のシーズン中は、てんでこ舞いだった」という。

ステージの横の棚には、康雄さんの輝かしい足跡を示



すトロフィーや盾が並んでいる。一つ一つに眺め入ると、人気野球漫画「ドカベン」プロ野球編の「コマが目に浮かんだ。「六番ファーストヤ

常にお奥さんの千代子さん

と二人三脚で歩んできた豊さん。二人合せて一七〇歳。体の衰えは否めない」と言うが、客の歌声と、阪神のコーチを務める康雄さんの活躍に元気をもらっているようだ。

〈佐藤輝マルチ適時打&特大号〉の見出しで、「藤井康雄コーチとスイングの形を入念に確認。結果につながった」との記事。元気の源が、6月13日のスポーツ紙に載って届いた。

コロナ禍で客は減ったが、何のその。客が歌う曲を紹介する豊さんの歯切れの良い声、相も変わらず店内に響いている。

つづく